

資産作りの常識

新

まさおか としゆき
正岡 利之 (MUF G資産形成研究所長)



1982年、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社。主に年金や投資信託を中心として、資産運用業務に携わる。2015年より同社で金融教育業務に従事。18年8月より現職。



若い人ほどリスクを取れる理由

「若い人ほど投資リスクを取れる」と言われる。年齢が若いほど「長期間の投資」になるので「リスクを取れる」と、期間と結びつけて考えられることが多い。

しかし、理由はそれだけではなく。金融資産の特徴は「将来、キャッシュフローをもたらす」ことだ。実は、我々が仕事をすることで収入を得ることも、その観点では、金融資産と似ている。

そこで、自分自身を資産として見立てることができ、これを「人的資本」と呼ぶ。ポイントは、自分自身の全資産を考えるとときに、「金融資産」と「人的資本」の合算で見ることだ。若いほど一般的にはこれから仕事をして収入を得る期間が長いと考えられるので、そこから得られるキャッシュも多いと想定される。

自分の付加価値を高める

「金融資産」と「人的資本」を合算して考えると、若いほど「金融資産」の比率は小さく、「人的資本」は大きいだろう。合計資産(金融資産+人的資本)に対して同じリスクを取るならば、若い人ほど「現在保有している金融資産」に對

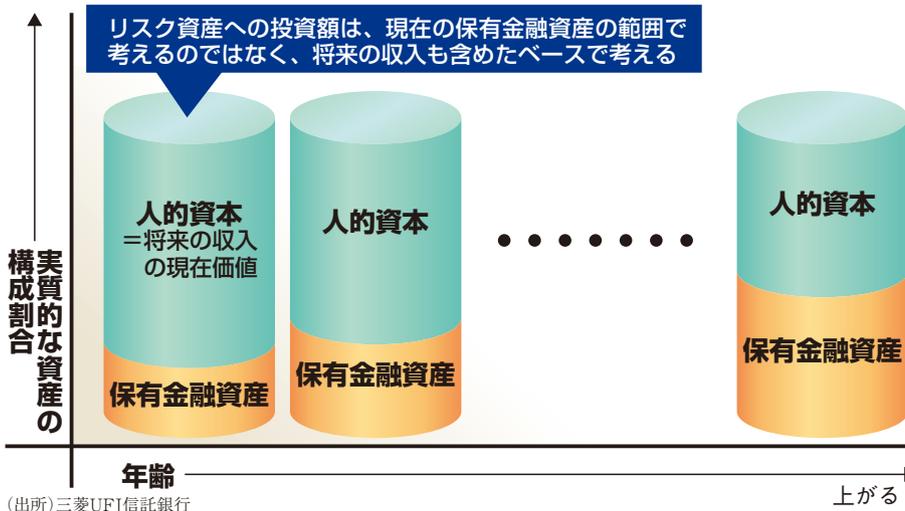
しては、高いリスクを取ることが可能である。これが「若い人ほどリスクを取れる」の意味合いだ。年齢が若いほど(図の左側)、保有する金融資産はまだ相対的に少ない。だが、自分という「人的資本」は、まだ長きにわたって収入を生み出すので、その現在価値の構成比は相対的に高い。一方で年齢が上がる(図の右に進む)と、金融資産は増えると期待されるが、人的資本は減ってくる。

同じリスク(投資金額)を取った場合、「その時点で保有している金融資産」に対する投資の比率は、若いほど高くなる。逆に高齢になると、「その時点で保有している金融資産」に対する投資の比率は、若い頃よりも低くなる。

このように考えると、若いときから「金融資産」への投資を行うのと同時に、自分の「人的資本」としての付加価値を高めること、そして、そのための投資もとても大切なこと

人的資本の豊富な若年層は、現在保有している金融資産に対してリスクが取れる

リスク資産への投資額は、現在の保有金融資産の範囲で考えるのではなく、将来の収入も含めたベースで考える



だとわかる。一方で、年齢が経過しても自分の「人的資本」を増やすという手段はある。つまり、働いて収入を得る期間を長くすればするほど、自分の「人的資本」は長持ちする。それによって、金融資産を含めた全体での目減りを少なくすることが可能になる。

(出所)三菱UFJ信託銀行